

まぶ で KO SO!

過去の記事は
こちら



価値 理解することが必要

教師が育てる探究の心

現代社会には、解決方法の定まらない難題が山積しています。そうした課題に立ち向かうには、既存の知識や先人の知恵を総動員し、多面的に考える力が欠かせません。その力を育むのが「探究型学習」です。

私の研究では、学習意欲や姿勢は探究型で高まり、詰め込み型では低下する傾向があります。2023~24年に大学1年生113人を対象に行った授業では、探究型では、「知識をただ覚えるのではなく、納得しながら学びたい」と考える学生が15%増加しました。一方、教師主導の授業では同じ回答が8%減少しました。探究型は知識の獲得を超えて学ぶ意欲を高める効

果があるのです。

私は約10年前からカンボジアの教育支援に関わってきました。経済成長が著しい同国では人材育成が急務ですが、教育現場では数十年前の教材が使われ、教師が板書と暗記を促す一方通行の授業が続いています。カンボジアの教育省も従来型の限界を認識し、主体的な学びの重要性を掲げていますが、教員養成大学の教員でさえ経験や知識が不足しており、現場にはほとんど普及していないのが現状です。

初めて学校を訪れた際、援助

された教材が段ボール箱のまま積み、開封すらされていない光景に衝撃を受けました。教材を配布するだけでは意味がなく、授業でどう活用するかを共に学ぶことが重要です。そこで私は現地教員を「生徒役」にして探究型授業を実演しました。すると彼らは自然に議論し学び合い、実験を重ねて答えに迫りました。その体験を通じて「暗記こそ良い授業だと思っていたが、探究型では自ら学ぶ力を実感でき感動した」との声も聞かれました。

こうした取り組みは現職教員や大学院生を対象にワークショップとして5回行われ、延べ200人を超える参加者がありま



中村琢さん

した。評価はいずれも高く、アンケートでも満足度100%という結果が得られました。

これらの経験から分かったのは、探究学習の効果は国や地域を問わず共通だということです。普段は一方通行の授業をするカンボジアの教師が課題を前



探究型学習に取り組むカンボジアの物理教師たちと中村准教授①カンボジア・コンポンチュナン州の高校で

ました。

探究学習を普及させるには、まず教師がその価値を理解することが不可欠です。探究には多様な形があり、教員同士が互いの考えをぶつけ合いながら授業を練り上げていく仕組みが必要です。そうした実践を通して、未来を生きる子どもたちに「自ら考える力」を育む授業を届けたい。それが私の願いです。

なかむら・たく 教育学



部准教授。専門は科学教育と物理教育学。名古屋大学大学院修了。博士(理学)